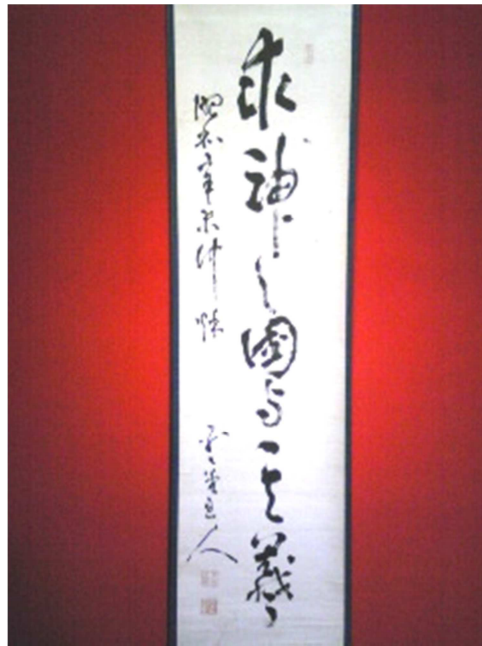


NO. 322

じゅんあい

平成26（2014）年1月1日

神の国と神の義を



昭和6年に書かれた御言葉

「何よりもまず、神の国と神の義^ぎを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加^{くわ}えて与えられる。」
(新約聖書 マタイ 6章)

あまりにも多くの物がはびこり、心^{まど}惑わされる中で、ただ一つ求めねばならないもの・・・と、しばし考える時間を持つ事が大切であると思う。

聖書は言う「何よりもまず神の国と神の義を求めなさい」と。

改めて原点に立ち返る意義があることを自らに言い聞かせよう。

あれもこれもと・・・よくばりしてもなお、沢山の^{たぐさん}ものを求める人間。そして結果として何をも得られず、不平とつぶやきを並べ立てて、不満足のまま^{じゅみょうつ}寿命尽きて死んでゆく人間・・・。

あゝ、人間とは何と愚か^{おろ}で憐れ^{あわ}な者であることよ。もう一度、悔^くいることなき人間本来あるべき姿、その原点に立ち返り、じっくりと見つめよう。

天地を造られし神。そして人間を造り^{みちび}導^{しゆ}いておられる主。

「私はあなたを私の^{えいこう}栄光^{そうぞう}のために創造した。」と言われる神の御^み声を聞き、神の御^み顔を仰^{あお}ぎ見、神の御^み心^こを行うことの中に生きる実感を味わい、真の喜^{よろこ}びと幸^{さいわい}せを体感してきた人間・アダムとエバ。それがアダム、エバの神への^{はんぎやく}反^{はん}逆^{ぎやく}によって食^たべてはならない知^ち恵^ゑの木^きの実^みを食^たべ原^{げん}罪^{ざい}を宿^{すく}してしまった人間。

「罪^{つみ}が支^た払^{はら}う報^{ほう}酬^{しゅう}は死^しです。しかし、神^{かみ}の賜^{たま}物^{もの}は、わたしたちの主^{しゆ}キリス^とト・イエスによる永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}なのです。」 (新約聖書 ローマ 6章)

「わたしは、自分の^わしていることが分かりません。

自分が望^{のぞ}むことは実行せず、かえって憎^{にく}んでいることをするからです。

もし、望^{のぞ}まないことを行^りっているとしたら、律^り法^{ぽう}を善^よいものとして認^{みと}めているわけになります。

そして、そういうことを行^りっているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住^すんでいる罪^{つみ}なのです。

わたしは、自分の内^{うち}には、つまりわたしの肉^{にく}には、善^{ぜん}が住^すんでいないことを知^しっています。

善^よをなそうという意志^{いし}はありますが、それを実行できないからです。

わたしは自分の望^{のぞ}む善^よは行^りわず、望^{のぞ}まない悪^{あく}を行^りっている。

もし、わたしが望^{のぞ}まないことをしているとしたら、それをしてい^しるのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住^すんでいる罪^{つみ}なのです。

それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則ほうそくに気づきます。

「内なる人うち」としては神の律法りっぽうを喜んでいますが、わたしの五体ごたいにはもう一つの法則ほうそくがあって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。

わたしはなんと惨めな人間なんでしょう。

死に定められたこの体から、だれがわたしを救すくってくれるでしょうか。」

(ローマ 7章) と叫び苦しみ救いを求めゆく人間。

「従したがって、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

キリスト・イエスによって命をもたらす霊れいの法則が、罪と死との法則からあなたを開放したからです。

肉の弱さのために律法りっぽうがなしえなかったことを、神はしてくださったのです。

つまり、罪を取り除くために御子のみを罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断しょたんされたのです。

それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法りっぽうの要求が満たされるためでした。

肉に従って歩む者は、肉ぞくに属することを考え、
霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。

肉の思いは死であり、霊の思いは命いのちと平和であります。

なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対てきたいしており、
神の律法に従っていないからです。

従えないのです。肉の支配下にある者は、
神に喜ばれるはずがありません。

神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく
霊の支配下にいます。

キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。

キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命いのちとなっています。

もし、イエスを死者の中から復活ふっかつさせた方の霊が、あなたがたの内に宿っ



ているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださいでしょう。」
(ローマ 8章)

イエス・キリストを信じ仰ぎ、心に受け入れることによって霊の法則に預かり、キリストにあって生きる『天の幸いと恵み、限りなき喜びと自由の境地』へと導かれゆく・・・ハレルヤ
キリストの故に神の相続人、天国の担い手とされるのである。

「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。

この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒にになって証ししていただきます。

もし子供であれば、相続人でもあります。

神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。

キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。」

(ローマ 8章)

「あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。

キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。

人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。

それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。

キリストはすべての支配や権威の頭です。」

(新約聖書 コロサイ書 2章)

「人々に、次のことを思い起こさせなさい。

支配者や権威者に服し、これに従い、すべての善い業を行う用意がなければならないこと、また、だれをもそしらず、争いを好まず、寛容で、すべての人に心から優しく接しなければならないことを。

わたしたち自身もかつては、無分別で、不従順で、道に迷い、種々の情欲と快樂のとりことなり、悪意とねたみを抱いて暮らし、忌み嫌われ、憎み合っていたのです。

しかし、わたしたちの救い主である神の慈しみと、人間に対する愛が現れたときに、神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。

この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。

神は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、この聖霊をわたしたちに豊かに注いでくださいました。

こうしてわたしたちは、キリストの恵みによって義とされ、希望どおり永遠の命を受け継ぐ者とされたのです。」 (新約聖書 テトス書3章)

ハレルヤ！ 神なく救いなくキリストなく、イスラエルの民籍にも遠かった私達であったのに。

「だから、心に留めておきなさい。

あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり、いわゆる手による割礼を身に受けている人々からは、割礼のない者と呼ばれていました。

また、そのころは、キリストとかかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました。しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。」

(エフェソ2章)と導いてくださる。そればかりか

「それで、このキリストによってわたしたちの両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。

従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。

す。

そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。」
(新約聖書 エフェソ書2章)

神の家族となし！ 神の神殿へ！ と引き上げられるのである。

福音 バンザイ !!

年頭にあたり、まずは生きる原点、聖書の原点に立ち返り、もう一度心を主に傾けよう。



《御言葉》

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」

「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と言って思い悩むな。

あなたがたの天の父は、これらのものが皆あなたがたに必要なことをご存じである。

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはみな加えられて与えられる。

だから、明日のことまで思い悩むな。

明日のことは明日 みずか 自らが思い悩む。

その日の苦勞は、その日だけで十分である。 (マタイ6章31～34)

殉愛キリスト教会

牧師：山縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>